

2025年度学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

保護者のみなさまには幼稚園の働きにご理解とご協力をいただいていますことを心より感謝申し上げます。2025年度に実施しましたアンケートでは、保護者のみなさまから概ね良好の回答をいただき教職員一同安心したところです。幼稚園ではより良き保育を目指して、これからも様々なことを点検・検討し、保育に反映させていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学校法に基づき2025年度学校評価（自己評価及び学校関係者評価）を公表いたします。

**教育理念** よく遊び よく学び よく祈る ～命の土台は遊びから～  
「遊び」が子どもを育て、人としての土台を育む

すべての人が神さまから愛されています。私たちは、神さまの愛の中で育てられ、知恵と力を与えられて、互いに愛し助け合うことのできる人となっていきます。目に見えないけれど人としての土台は、愛と信頼に守られて友達と力いっぱいかわる中で、つくられていきます。そのために、手宮幼稚園は子どもの成長にあった、それぞれの段階で必要な遊びを徹底して遊ぶように助けます。

① 安心 神と人ともに愛されていることを知る  
 ② 力 徹底して遊ぶ  
 ③ 信頼 ルールを楽しむ  
 ④ 祈り 神様に感謝し命を愛する

A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
I 保育の計画性	・園の教育理念や教育目標を理解している	80%	20%	0%	0%
	・幼稚園教育要領を理解していると思う	60%	40%	0%	0%
	・園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てている	60%	40%	0%	0%
	・日、月案は、園の方針、教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している	100%	0%	0%	0%
	・安全面に留意し、季節に応じた環境構成を取り入れている	100%	0%	0%	0%
	・幼児の声を聞きながら、主体的活動を進めていく環境構成を考えている	40%	60%	0%	0%
	・幼児の心の動きをみながら、活動の展開に応じて環境を再構成している	40%	60%	0%	0%
	・日々の保育の評価・反省は、その日のうちに行い、記録にとめ、次の保育にいかせるようにしている	40%	60%	0%	0%
<p>○保育の計画性でよく出てできていると思ったこと、課題として思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階や行事のねらいを意識し、保育計画を立案することができた。</li> <li>・月案を踏まえ、日々の保育を計画的に実践することができた。</li> <li>・月案作成を通して子どもの姿や育ちを的確に把握し、具体的な援助につなげることができた。</li> <li>・子どもが興味・関心をもって主体的に取り組めるよう、環境構成を工夫し継続的に楽しめる活動を提供した。</li> <li>・今後の課題として保育の見通しをより広く持ち、子ども一人ひとりと丁寧に向き合う時間の確保に努めていく。</li> </ul>					

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
Ⅱ 保育者の在り方、 幼児への対応	・朝の視診は丁寧な声掛けで必ず一人一人行い、その日の健康状態を見極めて対応している	80%	20%	0%	0%
	・年齢によっては遊びの幅も違うことを理解した上で環境構成の中で危険はないか配慮している	80%	20%	0%	0%
	・毎月の安全チェックとともに各クラス単位でも安全についての話をするように心がけている	60%	40%	0%	0%
	・一人ひとりを大切にしてスキンシップをとりながら、思いやサインを受け止めるよう心がけている	60%	40%	0%	0%
	・幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	60%	40%	0%	0%
	・幼児の理解のために（言いにくいこともしっかり伝え）家庭との連携をとる	20%	80%	0%	0%
	・幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がける	60%	40%	0%	0%
	・幼児が自ら考えたり工夫したり出来るように見守り、行き詰っているときには適切な援助をする	60%	40%	0%	0%
	・クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合う	80%	20%	0%	0%
	・常に幼児の発達段階に応じた対応を心がけ、教師の感情で対応をするようなことはない	60%	40%	0%	0%
	・幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がける	80%	20%	0%	0%
<p><b>○保育者の在り方、幼児への対応でよくできていると思ったこと、課題として思ったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの朝の視診を含め、子どもの健康状態を常に把握するように努めた。また体調不良の場合には保護者に連絡を取り病院の受診に協力してもらう事で感染症防止につながった。幼稚園での感染予防対策と保護者の協力により大きな感染症流行は見られることが無かった。</li> <li>・毎日の安全チェックを継続していくと共に、保育者間での安全確認箇所の情報共有をさらに強化していく。</li> <li>・子ども一人ひとりとの信頼関係を大切にし、気持ちに寄り添った関わりを行うことができた。今後も丁寧な関わりを継続していく。</li> <li>・保育者が行動の見通しを子どもに示す中で、子ども達が自ら考え理解を深める援助を行うように努めた。</li> <li>・子ども達への対応では、保育者間で相談・連携を図ることによって園全体で保育を進める一体感が強められた。</li> <li>・子どもの良さに目を向けた保育を意識して取り組んだ。</li> <li>・子どもの気持ちを汲み取りながら、環境設定と安全確保に努めた。</li> <li>・家庭と連携し、子どもの様子を伝えあいながら、さらなる幼児理解を深めていきたい。</li> </ul>					

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
Ⅲ 保育者としての資質と能力	・保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努める	0%	100%	0%	0%
	・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	100%	0%	0%	0%
	・使ったものは元の位置へ必ず返し、次の人が困らないよう整理整頓している	60%	40%	0%	0%
	・締め切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守る	40%	60%	0%	0%
	・教職員全員で一つのチームであることを自覚し、自分で得た情報など必ず報告・連絡・相談する	80%	20%	0%	0%
	・他者の意見を素直な気持ちで聞く、自分の意見を述べるよう努める	80%	20%	0%	0%
<p>○保育者としての資質と能力でよくできていると思ったこと、課題として思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの「やってみたい」という気持ちを捉え、事前準備を行いながら主体的に活動に取り組める環境を整えることができた。今後も子どもの興味・関心を的確に把握し、計画的な環境構成に努めていく。</li> <li>・新しい教材や玩具を通して子ども一人ひとりが遊び込む姿が見られ、友だちと楽しさや面白さを共有する経験につなげることができた。今後は、より発展的な遊びへとつながる援助を工夫していきたい。</li> <li>・新たな課題が生じた際には、その都度話し合いの機会を持ち、共通理解を図ることができた。今後も対話を重視し、保育の質の向上に努める。</li> <li>・子ども一人ひとりを尊重し、安心して過ごせる環境づくりを意識して保育にあたることができた。今後も保育者として資質向上を図り、子どもや保護者により信頼される保育を目指していく。</li> </ul>					

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
Ⅳ 保護者への対応	・保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をする	80%	20%	0%	0%
	・保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くよう心がけ、伝えるべきことは的確に伝える	40%	60%	0%	0%
	・保護者の個人情報の管理については園の方針に従い口外しない	100%	0%	0%	0%
	・電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がける	60%	40%	0%	0%
	・保護者からクレームがあった場合は、教職員全体で検討し、共通の理解のうえで対処する	100%	0%	0%	0%
	<p>○保護者への対応でよくできていると思ったこと、課題として思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信やHP、シール帳を活用し園の理念や教育活動また担任の思いを保護者に伝えることができた。今後もわかりやすく丁寧な情報発信を継続していく。</li> <li>・日々の送迎や行事、個人懇談を通して、保護者との信頼関係を大切にしたい関わりを行うことができた。引き続き、対話を重ね信頼の深化に努める。</li> <li>・子どもの育ちや日々の姿、成長の様子を具体的に伝えることで、保護者の安心感につなげることができた。</li> <li>・今後は、保護者と日常の関わりをさらに大切に、相談しやすい雰囲気づくりとより丁寧な対応を心がけていきたい。</li> </ul>				

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
V 地域の自然や社会とのかかわり	・園外散歩等を通じて自然に親しみ地域の方々との挨拶や会話も積極的に行っている	20%	80%	0%	0%
	・小学校教育を理解しようと心がけ、卒園した子ども達との会話も積極的に行っている	80%	20%	0%	0%
	・子育て支援や地域開放について、教職員全体で話し合い取り組もうとしている	60%	40%	0%	0%
	<p><b>○地域の自然や社会とのかかわりでよく出来ていると思ったこと、課題として思ったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩や外遊びを通して、季節の自然に触れたり身近な環境への気づきを深めたり経験を積むことができたとともに、園外保育の遠足、交通安全教室では交通ルールや安全意識、公共の場での過ごし方を学ぶ機会となった。</li> <li>・郵便局、水道博物館などの社会見学を通して、地域で働く人と関わる機会を持ち、社会とのつながりを実感する経験につながることができた。今後も地域資源を活用した活動を継続していく。</li> <li>・小学校との交流体験では、小学校の環境や小学生や先生と事前に関わることで、就学への不安がやわらぎ、小学生に憧れの気持ちが育つ経験になっている。</li> <li>・ヤクルト食育出前講座では、食への関心を高める学びにつなげることができた。</li> <li>・未就園児対象の「あひるの会」を開催し、地域に開かれた園としての役割を果たすことができた。今後も地域に根差した取り組みを大切にしていきたい。</li> </ul>				

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
VI 研修と研究	・研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加する	100%	0%	0%	0%
	・幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行う	80%	20%	0%	0%
	・教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	100%	0%	0%	0%
	・アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解する	60%	40%	0%	0%
	・遊具・教材の使い方や利用方法について研究している	60%	40%	0%	0%
	・園内の環境を活用するうえでの研究・計画に努めている	80%	20%	0%	0%
<p><b>○研修と研究でよく出来ていると思ったこと、課題として思ったこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教保育や子どもの育ち・発達理解、保護者対応、子どもと教材・玩具の関わり、ハラスメント、絵本やわらべうた、救急救命等に関する園内外の研修に参加し、子ども一人ひとりの育ちをよりよく支えるために、知識や技術、考え方を学び続け保育の質向上を意識して取り組んだ。</li> <li>・研修を通して他園の保育者との交流を深め、多様な実践や視点に触れる機会となった。</li> <li>・研修で得た学びを園内で共有し、日々の保育実践にさらに生かしていくことを課題としたい。</li> </ul>					

# 学校評価委員会

日 時 2026年3月30日(月) 午後13時～  
場 所 手宮幼稚園集会室

## 組 織

評価委員	阿部美也子さま	(手宮地区主任児童委員)	出席
	北川和子さま	(手宮地区主任児童委員)	欠席
	北嶋省三さま	(梅ヶ枝町町内会長)	出席
	小寺友興さま	(小樽市立手宮中央小学校校長)	出席
	(五十音順)		
幼稚園	平 宏史	(認定こども園手宮幼稚園園長)	
	櫻井麻実	(認定こども園手宮幼稚園主幹)	

## 議 題

1. 認定こども園手宮幼稚園2025年度活動・教育理念概要  
(1) 教育理念に基づく今年度活動報告概要
2. 自己評価結果報告  
(1) 保護者アンケート調査結果報告  
(2) 保育者自己評価結果報告
3. 質疑
4. 感想、ご意見、評価、要望など

## 【学校関係者評価委員の方々に評価をして頂きました】

- ・幼稚園生活の中で、保育者、友だち、周囲の人たちと関わり、人間関係を築いていくことは、子ども達の成長にとっても大切。
- ・幼稚園の社会見学（動物園、水族館、親子遠足（青少年科学館）、郵便局、下水道科学館、買い物等）は、園外での体験を通して、子どもたちが社会への関心を広げ、そこから好奇心が育っていく良い学びの機会となっていると思う。
- ・防災引き取り訓練は、この訓練を通して保護者と園の動き方の共通理解が生まれ、緊急時も落ち着いて行動できるようになり、また園の課題も見つけることができ、より安全な体制づくりに生かす事が出来る。この訓練によって子ども自身の安心感にもつながり不安がなくなる。
- ・熊騒動、不審者の出没、災害等、万が一の時に子どもたちの命と安心を守るために、園と保護者が同じ意識で行動できるようにする取り組みは小学校でも行っているが、必要な訓練だと思う。
- ・幼保小連携による幼稚園と小学校の交流は、低学年(1年)の子ども達も、幼稚園、保育園の子ども達を迎える準備を喜びながら行っているので、今後も継続して行っていきたい。
- ・中学生と園児との交流は、交流後の生徒たちに、明るく穏やかな雰囲気を感じられた。中学生も小さな子どもたちに関わることで、思いやりや協力する力が育ち、世代を超えた温かい交流の場となっていると思う。
- ・地域（幼稚園、保育園、小学校、中学校、町内会）全体で、お互いの成長を喜び確認し合いながら、連携して子育てを行っていくことは大切なことだと思う。
- ・給食の取り組みとしては、食材の好き嫌いはあると思うが、子どもたちが一口でも苦手な物を食べて栄養を摂取し、成長していてもらいたい。
- ・小中学生になると、体重や容姿を気にして給食の食べる量を自分で制限する子が見られる。昼食時には、沢山食べてもらえるように、声掛けや雰囲気を大切にしていくことも必要。
- ・保育者は、保護者とのコミュニケーションを大切にして園への理解を深めてもらうと共に、子どもの情報を共有することによって、共に子どもの成長を喜び合う信頼関係の構築に努めていることが伺えた。
- ・子どもの言葉や行動の記録を残しておくこと、保護者との情報共有の有効な資料となる。

本評価委員会では、園の教育活動や保育環境、子どもたちの成長の様子について多角的に検討しました。今後さらに幼稚園教育を充実させるためには、評価方法の工夫、記録の整理・共有の工夫が課題として挙げられました。今後も本園は、子どもたち一人ひとりの成長を支え、保護者の方や地域の方と協力し合いながら、よりよい教育・保育の実践を継続していきます。